

別紙 知の探検講座内容紹介

講座 「資源生物科学の最前線を学ぶ」(名古屋大学)

知の探検講座 (10:00-16:00) 農学部 B600 号室

講座内容	実施日	担当教授等	コメント
1 講義と実験実習 植物細胞からのプロトプラストの 分離と融合	8月1日 (火)	三宅 博教授 川崎 通夫助手 他3名	植物細胞は硬い細胞壁に覆われていますが、浸透圧の高い条件下で酵素を使って細胞壁を溶かすと、細胞の中身が球状のプロトプラストとして取り出せます。異種のプロトプラストを試薬を使って融合させ、再分化させると雑種植物が得られます。今回はプロトプラストの分離から融合までを実験します。
2 講義と実験実習 イネの遺伝子を見てみよう	8月2日 (水)	服部 一三教授 佐藤 豊助教授 犬飼 義明助手 他5名	この講義と実習では、イネの遺伝子を取り出し、「遺伝子を見る」ことを体験します。今日では、いろいろな雑誌やテレビなどの映像によって、いわゆる「遺伝子」という言葉に触れる機会は増えてきました。しかし実際に遺伝子を目で見る機会は、ほとんどありません。そこで、この実習では最新のバイオサイエンスの技術の一端を体験しながら遺伝子を実際に目で見てみましょう。日頃漠然と理解している遺伝子についてもっと親しみをもてるかもしれませんよ!
3 講義と実験実習 イネのDNA鑑定	8月3日 (木)	服部 一三教授 佐藤 豊助教授 犬飼 義明助手 他5名	イネには様々な品種がありますが、品種の違いはどのようにして生まれるのでしょうか?実は特定の遺伝子の配列や長さは品種によって微妙な違いがあることが知られています。この様な微妙な違いを検出することにより品種を特定することができます。ヒトの場合の親子鑑定や犯罪捜査におけるDNA鑑定もこの様な原理に基づいて行われています。そこでこの講義と実習ではイネの二つの品種を見分けるDNA鑑定に挑戦してみましょう。

<p>4 講義と実験実習 魚類の解剖から、人体の構造とその歴史を学ぶ</p>	<p>8月4日 (金)</p>	<p>宗宮 弘明教授 他4名</p>	<p>魚類は最初の脊椎動物で約5億年前に誕生し、デボン紀(4億年前)に繁栄しました。魚類から、両生類が進化し、両生類から八虫類、八虫類から哺乳類が進化してきました。われわれヒトは生物学的には哺乳類で、その体の構造は魚類と基本的に同じです。魚類の解剖を行う中で、ヒトの体の構造を理解し、その歴史を探ります。最終的に、われわれの体の各臓器の歴史が5億年あることを体験的に認識することを目標とします。</p>
<p>5 講義と実験実習 目で見るホルモンの働き(1)</p>	<p>8月24日 (木)</p>	<p>前多 敬一郎教授 束村 博子助教授 上野山賀久助手 他3名</p>	<p>哺乳類の体の中では卵胞発育、排卵、受精、妊娠、泌乳あるいは精子形成といったさまざまな現象が繰り返されます。さらにその機能を成り立たせるため、さまざまな生殖行動が観察されます。これら生殖に関する現象がどのようにホルモンにより制御されているかをラットをモデルとして、見てみよう。</p>
<p>6 講義と実験実習 目で見るホルモンの働き(2)</p>	<p>8月25日 (金)</p>	<p>前多 敬一郎教授 束村 博子助教授 上野山賀久助手 他3名</p>	<p>同上(続き) この日は終了が17:00になる場合があります。</p>

知の探検講座 (10:00-16:00) 農学部 B600 号室

講座内容	実施日	担当教授等	コメント
7 講義と実験実習 植物の超微構造の世界を探る	10月7日 (土)	三宅 博教授 川崎 通夫助手 他3名	複雑な構造を持つ植物は構造と機能の異なるさまざまな細胞から成り立っています。細胞の内部構造は電子顕微鏡で観察することができます。電子顕微鏡を実際に操作して微細構造を観察し、写真を撮ってみよう。
8 講義と実験実習 寄生バチ学を学ぶ	10月21日 (土)	田中 利治教授 三浦 健助教授 他3名	地球上の生物はお互いに非常に強い関連を持って生活しています。その中でも寄生バチは、実に巧妙な仕組みを寄主と作り上げています。その仕組みの一部を紹介するとともに実際の観察を通して寄主の発見過程などの解析を行います。
9 講義と実験実習 昆虫の翅作りに係わる遺伝子を学ぶ	10月28日 (土)	新美 輝幸助手 柳沼 利信教授 他5名	昆虫は翅を獲得することにより、移動能力を拡大し、地球上で最も繁栄している生物です。ここでは、昆虫の翅の形成に係わる遺伝子について、講義と実験実習を通して体験してもらいます。

講座 「環境学の冒険」(名古屋大学)

知の探検講座

講座内容	実施日	担当教授等	コメント
1 観測気球で上空の風を測る フィールドセミナー	8月2日 (水)	甲斐憲次 教授 柴田 隆 教授	本セミナーでは、空気が動くことをどのようにして計測するのか、空気が動くことでどのようなことが起きるのかを気象学の立場で理解することをねらいにしています。濃尾平野に吹いている風は、同時にさまざまな物質を運んでいます。このようなことを、野外実習を通して理解します。同時に、レーザーレーダーなどの気象機器の原理などについても勉強します。
2 南アジアの環境とフィールドワーク キーワード: インド、いちば、フィールドワーク、カースト	8月3日 (木)	溝口常俊 教授	南アジア社会の人々の生活を、皆さんにサリ、ルンギ(男性用腰巻き)などをまとってもらい、チャイを飲みながら、語ります。パラモン・不可蝕民・王様・娼婦・あらゆるカーストが行きかう「いちば」に入り込み、外側からでは分からないカースト社会の日常を垣間見ます。結婚式、葬式、南インド炎天下の食事、20世紀最大の水害、ラクダ記念日、空飛ぶ絨毯論など、教科書では学べないフィールドワークの醍醐味を伝えたいと思います。
3 水をいつまでも大切に使うには キーワード: 飲み水・生活汚水・水の浄化・塩素処理・COD・硬度	8月4日 (金)	村田静昭 教授 浦野扶美 講師	私達は、水道栓から安全な水を欲しいだけ使える社会に生活しています。しかし、世界中には安全な飲み水が確保できないために、伝染病におびえながら暮らしている人々が何億人もいることを忘れてはなりません。この講座では、安全な水はどのように作られているのか、いつまでも安全な水を使い続けるためには何が必要か、この二つのことに関して講義と実験を通して考えてみたいと思います。
4 堀川の水質を調べてみよう	8月18日 (金)	高野雅夫 助教授	名古屋の中心街を流れる堀川では市民に愛される川にするために水質浄化の努力がすすめられています。野外で簡単かつ高精度に水質を分析できる最先端の分析法(オンサイト分光吸光度測定法)を用いて、上流から下流までの水質を測り、どの程度汚れているのかを把握します。
5 都市の河川を考える:名古屋 市堀川を事例にして	8月19日 (土)	田中重好 教授 田淵六郎 助教授	多くの人が集まる都市は、河川と密接につながっていますが、都市の歴史の中で、河川と人のつながりは大きな変化をとげしてきました。このところ、いくつかの大都市では、市民たちが河川との関係を見つめ直す動きが進んでいます。この授業では、18日の講座と連携しながら、名古屋の中心街を流れる堀川を歩き、取材することを

			通じて、都市における河川と人の関係について学び、考えます。
6 鉱物学と環境学の接点：アスベスト	8月28日 (月)	榎並正樹 教授 Simon Wallis 助教授	細針状・繊維状になりやすく、肺の中に吸入され、中皮腫などの原因となるアスベストは、石英(水晶)やダイヤモンドなどと同じく鉱物です。では、何故アスベスト鉱物は、ダイヤモンドなどとは異なり、非常に細くなるのでしょうか。また、アスベストとその代替品のロックウール(人工のガラス繊維)はどこが違うのでしょうか。これらの点を含めて、アスベストが持つ特徴を、鉱物という観点から紹介します。また、アスベスト鉱物の同定法とその問題についてもお話しします。

探検講座

<p>7 現場で考える、まちづくりと公共交通</p>	<p>9月9日 (土)</p>	<p>加藤博和 助教授</p>	<p>人口減少時代を迎え、地球環境問題も深刻となる21世紀、環境にも人にもやさしいまちを「つくり」「まもり」「そだてる」ために、どのような住宅開発や交通整備を行うことが必要なのでしょうか？新交通システム廃止目前の桃花台ニュータウンは、20世紀型大規模住宅開発の典型であり、様々な工夫が施されていますが、多くの問題点も抱えています。それらを目の当たりにすることで、今後の街づくりにおいてどのようなデザインが必要かを一緒に考えましょう。</p>
<p>8 ゲームシミュレーションで地球規模の環境問題を体験する</p>	<p>10月14日 (土)</p>	<p>広瀬幸雄 教授</p>	<p>飢餓・貧困・経済成長・環境汚染など地球規模の環境問題はどのように関連しているのでしょうか。また、それらの問題を南北間の協力によって、どのようにして解決できるのでしょうか。この回では、地球規模の環境問題を単純なRPG型のゲームに再現した仮想世界の中で、みんなで模擬体験してみましょう。その体験を参加者間で話し合いながら、現実の問題の理解を深めることを目指します。</p>
<p>9 バンブーハウスをセルフビルド</p>	<p>11月11日 (土) 雨天の場合は11月25日に順延</p>	<p>小松尚 助教授</p>	<p>竹はアジア各地で建築や道具、工芸品、食品に使われています。材料としての竹は、木材のように製材加工をしなくても使えることや軽くて強いこと、そしてその姿の美しさが魅力です。最近日本では森の中に竹が繁茂して問題になることも多いですが、そのように自然繁茂した竹を切り出して、雑木林の中で小さな「バンブーハウス」を作ってみます。どうしたら雨風をしのげるか、どうしたら人が載っても壊れないか、そしてどうしたら美しい「バンブーハウス」になるかを考えながら、みなさんの手で作ってみませんか。</p>

講座 「材料の科学、応用化学の世界」(名古屋工業大学)

知の探検講座

講座内容	実施日	担当教授等	コメント
1 講義 触媒の役割	8月3日 (木)	實川浩一郎 教授 柳生剛義 助手	我々の日常生活を支えている物質はどのようにして作られているのか？あるいは環境はどのように守られているのか？プラスチックの製造から排気ガスの処理まで、役立つものを作ったり有毒なものを分解したりする反応の数多くは、触媒によってコントロールされている。 化学の歴史をたどりながら、化学および化学工業において触媒が果たしてきた役割を紹介し、物質の変換が化学の本質であることを講義する。
2 講義と実験 セラミックスの世界 ・セラミックスの概要説明 ・セラミックスを作る ・強度を測ろう	8月21日 (月)	淡路英夫教授 大門啓志助教授 橋本 忍助教授 他 1名	セラミックスの特長は、周期律表上の多彩な元素を選択して組み合わせることができ、多種多様な材料が作れることです。 この講座では、まず、セラミックスの基本的なことからについて分かりやすく説明し、次に簡単な工程でセラミックスを実際に作って、物性を測るなど身近さを実感してもらいます。 最後に、私達の研究を紹介しセラミックスの発展性を理解してもらいます。
3 化学実験 ・化学に関する基礎実験	8月4日 (金)	鈴木将人 教授 高木幸治 助教授 松岡真一 助手	ポリマーはプラスチックとして身の回りにたくさんあります。それらのプラスチックは電気を通さず、絶縁体の代名詞のように思われてきました。しかし、ポリマーでも電気が流れることが発見され、日本人研究者がノーベル化学賞を受賞しました。 本実験では、高校の教科書でも登場するアニリンの重合体(ポリマー)の興味深い電気特性を体験します。

知の探検講座

講座内容	実施日	担当教授等	コメント
<p>1 実験講座(物理) ・電子材料をつくってみよう</p>	<p>9月30日 (土) 10月7日 (土)</p>	<p>市村正也教授 江龍 修教授 大原繁男助教授 岩田 真助教授 安部功二助教授 加藤正史助手 青柳倫太郎助手</p>	<p>私たちは毎日の暮らしの中で色々な電子材料を使っています。半導体、液晶、誘電体、超伝導体・・・名前は聞いたことがあるかもしれませんが、でも、実際に見たり触ったりした経験はあまりないでしょう。</p> <p>この講座では、実際にみなさんに電子材料を作ってもらいます。原料を量ったり、熱したり、水に溶かしたり・・・ちょうど料理をするような感じです。それからできあがった電子材料の性質を調べて、どんな役に立ちそうか、みなさんといっしょに考えたいと思います。</p> <p>電子材料の新しい使い道をぜひ考え出してください。</p>
<p>2 地震に強い家作り講座 ・耐震のしくみと安全・安心を学ぶ</p>	<p>11月25日 (土) 12月2日 (土)</p>	<p>小野徹郎教授 岡田成幸教授 市之瀬敏勝教授 井戸田秀樹助教授 趙 衍剛助教授 梅村 恒助教授</p>	<p>近い将来に発生することが確実視されている東海地震、耐震強度偽装事件とも関連し、建築物の耐震はいま社会的にも高い関心が持たれています。</p> <p>この講座では、住宅が地震の力に抵抗するしくみを実験で経験して、強い家作りを理解するとともに、大地震に備えた安全・安心について地震防災の幅広い視点から学ぶことを目的としています。</p>
<p>3 カーデザインに挑戦</p>	<p>10月28日 (土) 11月4日 (土)</p>	<p>木村 徹 教授 堀越哲美 教授 河田克博 教授 藤岡伸子 教授 石松丈佳 助教授 須藤正時 助教授 寺田勝三 助手</p>	<p>中部地方、特に愛知県の誇る産業に自動車産業があります。そのなかでもとりわけ重要な側面であるインダストリアルデザインのプロセスを体験します。</p> <p>インダストリアルクレイは、通常インダストリアルデザインの世界で使用されるモデリングツールですが、一般生活者が、目にしたり、触れる事は稀です。この素材を使用し、実際に10分の1程度の自動車模型を制作します。自動車の特徴あるフォルムがどのような過程を経て作られるかを学習します。</p>

講座 「ものづくりの科学」(豊田工業大学)

知の探検講座

講座内容	実施日	担当教授等	コメント
1. 実験講座 ソーラー発電	8月2日 (水)	山口真史教授 大下祥雄助教授 小島信晃助手	シリコンなどの半導体に光を当てると電気が発生します。このように光が電気に変わる現象を応用したのが太陽電池です。この講義では、最初に、太陽電池に光を当てると電気を取り出すことが出来る理由や、太陽電池の作り方を学びます。続いて、クリーンルームと呼ばれるきれいな環境の中で、実際に太陽電池の作製にトライします。最後に、光を電気に変える効率を調べて、平均的な家族が使う電気を発電するには、どのくらいの大きさの太陽電池が必要なのかを理解します。
2. 実験講座 人工知能 情報システム研究室 ・コンピュータの役割、今後の課題 ・人間の脳とコンピュータ ・人工ニューラルネットワーク	8月3日 (木)	北川一教授 中川徹助教授	コンピュータの誕生・発展・課題、人間とコンピュータの比較、人工知能の歴史・方式・実現可能性、人工知能の手法としての人工ニューラルネットワークの概要と実験。
3. 実験講座 ナノテクノロジー ・走査トンネル顕微鏡による結晶の原子レベル観察 ・電子ビームによるオージェ電子分光法による結晶の観察 ・電気泳動法で作製したカーボンナノチューブの観察	8月24日 (木)	上田一之教授 吉村雅満助教授	ナノサイズの極微世界の観察や作製のための極めて重要な手法について学びます。 走査トンネル顕微鏡による原子・分子の直接観察 オージェ電子分光法による固体表面原子の組成分析 現在ナノテク材料で注目されているカーボンナノチューブを電気泳動法により配列させ電子顕微鏡により観察します。
4. 実験講座 光の科学 a. 光とは何かを考えてみよう。 b. 光の性質を調べてみよう。 光を制御してみよう。	8月25日 (金)	大石泰丈教授 斎藤和也助教授	a. 光とは何かを考えてみよう。(授業) 「光とは何か」という非常に素朴な疑問から、様々な学問や技術が生まれてきたことを学ぼう。 b. 光の性質を調べてみよう。(実験) 回折・干渉・偏光などの簡単な実験を行い光の性質を目で確かめよう。 c. 光を制御してみよう。(実験) 私たちの周りには発光する物質が種々あります。発光現象を調べ、そのメカニズムを考えてみよう。

知の探検講座

講座内容	実施日	担当教授等	コメント
1. 実験講座 ロボット工学	10月14日 (土)	成清辰生教授	ロボットの運動制御をコンピュータシミュレーションと実験装置を使って体験します。対象とするロボットは、モバイル(移動)ロボット、空気圧浮上型宇宙ロボットです。 この他、制御の基本的な概念を理解するため、電磁石で鉄球を浮上させ、空気中の任意の位置に静止させる磁気浮上システムの制御実験も行います。
2. 実験講座 情報記録 ・磁石の秘密(講義) ・どのように情報は記録される? (講義) ・どんな材料?(実験) ・ハードディスクの情報を目で見る! (実験)	10月28日 (土)	鈴木教授	パソコンに使われているハードディスクの記録の原理について学び、ナノテクノロジーが情報社会で果たしている役割を学びます。 また、ハードディスクを作っているクリーンルームで実験をし、工学の面白さを体験します。
3. 実験講座	11月11日 (土)	東教授 小林助教授	<ul style="list-style-type: none"> ・「設計工学」とはどのような学問か?(講義) ・市販のCADソフトを用いた簡単な部品的设计(演習) ・設計工学の研究の最先端に触れます(協調設計)(演習)
4. 実験講座 流れの科学 a. 流れを学ぶ...流体力学入門 b. 流れを見る...流れの可視化実験 c. 流れを知る...計算流体力学体験 d. 流れを測る...航空機、自動車の風洞実験と性能評価 e. 流れと遊ぶ...希望に応じて実施	11月18日 (土)	田中周治教授 瓜田明助手	航空機や自動車等のまわりの流れを科学的に理解するための基礎を学び、それらの応用の実際を体験します。 a 流れの力学の基礎を学びます。(授業) b 簡単な物体まわりの流れを観察し、流れの基本的な性質を理解します。(実験) c 流れを理論的に計算する手法の基礎を学びます。(演習) d 航空機や自動車の縮尺モデルを使った風洞実験を行い、流れの状態の観察や流体力の計測を通して、これらの流体力学的性能の評価を行います。(実験) e 参加者の希望に応じて実験・計算を実施し、流れの研究の楽しさを体験します。

知の探検講座

講座内容	実施日	担当教授等	コメント
1 講義 コンピュータの基礎 講義 ハードとソフトの密接な関係 講義 アルゴリズム(計算手順)の話 講義 エディタ、コンパイラ、コンピュータ環境	8月1日 (火)	成瀬 井手口 稲垣 成瀬	独自教材 独自教材 独自教材 利用の手引き
2 演習 エディタ、コンパイラ、コンピュータ環境 講義と演習 Cプログラム: やさしい入門 講義と演習 Cプログラム: やさしい入門 講義と演習 Cプログラム: やさしい入門	8月2日 (水)	成瀬 山村 山村 山村	利用の手引き 以下はカーニハン・リッチーの教科書 (本講座で使用する教科書)の章番号 を示します。 1.1 - 1.3 1.4 - 1.6 1.7 - 1.10
3 講義と演習 Cプログラム: データとはなんだろう 講義と演習 Cプログラム: データとはなんだろう 講義と演習 Cプログラム: 計算式を書いてみよう 講義と演習 Cプログラム: ここまでの復習	8月8日 (火)	村上 村上 村上 村上	2.1 - 2.4 2.5 - 2.9 2.10 - 2.12 1.1 - 2.12
4 講義と演習 Cプログラム: あっちへ行ったりこっちへ来たり 講義と演習 Cプログラム: あっちへ行ったりこっちへ来たり 講義と演習 Cプログラム: 関数を書いてみよう 講義と演習 Cプログラム: 関数と変数の関係	8月9日 (水)	奥田 奥田 奥田 奥田	3.1 - 3.4 3.5 - 3.8 4.1 - 4.5 4.6 - 4.9
5 講義と演習 Cプログラム: 再帰関数 講義と演習 Cプログラム: 配列の話 講義と演習 Cプログラム: 配列の話 講義と演習 Cプログラム: 入出力	8月15日 (火)	櫻井 櫻井 櫻井 櫻井	4.10 5.1 - 5.12の中で配列に 関係する部分 5.1 - 5.12の中で配列に 関係する部分 7.1 - 7.8の中で標準入出力 に 関係する部分

概要

この講座は、プログラミング言語をマスターしようという講座です。「プログラミング言語って何?なんか難しそう。」という声が聞こえてきそうですが心配いりません。わかりやすく解説します。この講座では、まず、コンピュータがどのように動いているかということをお話します。昔フォンノイマンという人が、こうしたら機械(電子回路)で計算ができると言いました。そのときは、とても難しい話だったのですが、60年もたった今では、誰でも理解できるように考え方が整理されてきました。1日目はその考え方を説明します。講義 ではフォンノイマンの考えを今様に話します。(だから理解は容易です。)講義 ではパソコンの動作について話します。講義 では、問題を計算機に解かせるにはどのようにしたらよいか。つまり、ああやってこうやって・・・というふうに計算していけばよいという計算手順につい

て話します。(その手順のことをアルゴリズムといいます。)もうわかりましたね。実際にコンピュータに計算させるには、アルゴリズムを書かなければなりません。その道具がプログラミング言語です。(コンピュータゲームだってプログラミング言語で書かれているのです。)

講義 と演習 では、コンピュータの使い方とプログラムを書くための道具の使い方を学びます。ここまでで、プログラミング言語を習う準備は完了です。

さあ、プログラミングをはじめましょう。まずは、簡単なプログラムを書いて、コンピュータの上で動かしてみましよう。(講義と演習 、 、)「自分の書いたプログラムが、コンピュータの上で動いた。」この感動を大切に!

いよいよ本格的にプログラミング言語を修得していきましょう。まず、データとは何だろう?ということ进行学习します。整数データとか実数データは基本的なデータです。いろんな種類のデータがあります。(講義と演習 、)ついで、計算式、いろんな演算があります。それらを覚えましょう。(講義と演習)ここまでやって一休み、いままでの復習です。(講義と演習)

次は、制御構造と呼ばれるものです。もし今日雨だったら家で数学の勉強をし、そうでなかったら野外観察をする。といった記述です。このような記述ができるから、複雑な計算をするプログラムが書けるのです。(講義と演習 、)まとまった計算、たとえば、生年月日を与えたら今日まで生きてきた日数を与えるというような計算は、いつも同じ手順で計算できます。こういうものは関数という形式でプログラムを書いておくととても便利です。関数の書き方を覚えましょう。(講義と演習 、 、)

身長を平均を求めることを考えてみましょう。何人もの身長のデータを足して、人数で割ると平均が出てきます。何人ものデータを足すというプログラムをどのように書いたらよいか?ここで登場するのが配列です。配列を利用すると多数のデータに対して計算するプログラムが簡単に書けます。その使い方を学びましょう。(講義と演習 、)そして、最後は入出力、人とコンピュータのインタフェースです。(講義と演習)

知の探検講座Iは、ここまで。ここまででひと通りのプログラムが書けるようになります。

知の探検講座

講座内容	実施日	担当教授等	コメント
1 講義と演習 復習1：エディタ、コンパイラ、やさしい入門1、2 講義と演習 復習2：C言語の基礎 講義と演習 関数の復習 講義と演習 配列、入出力の復習	10月7日 (土)	神山 神山 神山 神山	利用の手引き 1.1 - 3.8 4.1 - 4.11 5章, 7章,
2 講義と演習 アルゴリズムとプログラム1 講義と演習 アルゴリズムとプログラム2 演習 課題に挑戦1 演習 課題に挑戦2	10月14日 (土)	山本 山本 山本 山本	独自教材
3 演習 課題に挑戦3 演習 課題に挑戦4 演習 課題に挑戦5 演習 課題に挑戦6	10月21日 (土)	金森 金森 金森 金森	独自教材
4 演習 課題に挑戦7 演習 課題に挑戦8 演習 課題に挑戦9 演習 課題に挑戦10	10月28日 (土)	吉岡(博) 吉岡(博) 吉岡(博) 吉岡(博)	独自教材
5 発表会	12月25日 (月)	担当者全員	発表会

概要

知の探検講座Iを履修したみなさんは、もう「プログラミングの必要性」や「プログラムを書くことは難しい」ということがわかっています。後半の講座では、今までに習ったことを確実に身につけるために課題に挑戦と題して、演習問題を解いて行きます。すなわち、自分でプログラムをしていきます。自分で書いたプログラムが思い通りに動いたときとても素晴らしい感動を覚えることでしょう。

では、期の内容を説明します。皆さんはプログラムを書けるようになりました。でもまだよちよち歩きの段階です。そこで、まず、知の探検講座Iでやったことを復習しましょう。そして、いくつかの例題でプログラミングに慣れましょう。(講義と演習、、、、)知の探検講座Iでアルゴリズムの話をしました。問題が与えられたら計算手順(アルゴリズム)を考えます。そしてプログラムをします。この訓練がとても大切です。いくつかの例題でやってみましょう。(講義と演習、)

最後は、みなさんが自分で考えて問題を解く。それがこの講座の総仕上げ。いくつかの課題を用意します。果敢に挑戦してください。(演習～)自分で本当に出来るかな、なんて心配は無用。皆さんの先輩の大学生が皆さんに付き添ってやさしくアドバイスしてくれます。さあ、果敢に挑戦しよう!